

南風

MINAMI KAZE

「南」は母校のある南港を、「風」は便りに通じ、「南港からの便り」という意味をこめて名づけました。

－発行所・連絡先－
相愛大学人文学部同窓会

〒541-0053
大阪市中央区本町 4 丁目 1-23
TEL/FAX (06)6261-2040(直)
E-mail sj-dosokai@soai-jinbun-dosokai.org
URL <https://soai-jinbun-dosokai.org/>

会長挨拶

一 階 由 香



平成から令和に代替わりして、私たちの生活はどのように変化したでしょう。

思えば、平成の約30年間は、たしかに自然災害が多かった印象が強いですが、世界中で日本人が活躍し、国内外でいくつもの新しいシステムや技術が導入され、私たちの生活は格段に便利になりました。

1936年に公開されたチャールズ・チャップリンの監督・主演の映画『モダン・タイムス』

で揶揄された“機械に使われる人間”は近代化の中で翻弄される人間の姿を痛烈に風刺した作品です。80年以上前の作品であり、そこに描かれる機械のレベルや社会のスピードにもずいぶん差はあるものの、この21世紀の生活に対しての警鐘になりうる作品ではないでしょうか。

そこで、そんな時代だからこそ、力を発揮するのが“人文学”ではないかと思うのです。

柔軟な思考力、しなやかな対応力、そして、幅広い知識力が物言う時代です。“人文学”というと「何するの？」な感じが否めないわけですが、人文学部で学んだわたしたちだからこそ、その力が活かせ、存在意義が主張できる時代、まさに“**わー(°▽°)ー!**”です。

何かに特化した力も必要ですが、何にでも対応できる力が求められるのが現代ではないかと思うのです。

AIではない人間の力が必要とされる今だからこそ、人文学部卒業生の実力の見せどころではないでしょうか。

新しい令和の時代のはじめにあたり、そんなことを考えてみました。

最後になりましたが、今般の新型コロナウイルス感染拡大により、大学内外の行事も大きな影響を受けたとうかがっています。平穏な一日を「ありがたい」と思いながら青空を仰いでいます。

学長挨拶

金 児 曉 嗣



平素より、一階会長をはじめ人文学部同窓会の皆さまには、相愛大学の教育・研究・社会貢献活動にご理解とご協力を賜り、厚く御礼を申し上げます。卒業された皆さまが相互に親睦を図ると同時に、長年の知識や経験を活かして本学を支えてくださり、またそれぞれの地域社会において貢献されていることを、誠に心強く思っております。

大阪での開催が2度目となる

2025年国際博覧会（万博）の開催が決まり、大阪・関西をはじめオールジャパン体制で、開催の成功に向けた準備が進められています。2025年万博のテーマは「いのち輝く未来社会のデザイン」であり、めざすものとして、「国連が掲げる持続可能な17の開発目標（SDGs）が達成される社会の実現」を掲げています。

本学においても、建学の精神である「當相敬愛」を踏まえ、SDGsに賛同し、取組を行っております。大学としての取組という観点からは、SDGsは課題が互いに関連すること、に特徴があり、目標を達成するには、理工学や医学といった実学の集積だけでなく、「人間本性」を研究対象とした人文系学問との連携が行われないと解決できないと考えます。

SDGs達成の目標年である2030年まであと10年。学生諸君にはその達成を考える中で、知識のみならず思考力・判断力を養い、主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度を身に付けてほしいと願っています。

人文学部同窓会の皆さまの今後とも変わらぬご支援をお願いし、ご挨拶とさせていただきます。



学部長挨拶

千葉 真也

「ご挨拶」の参考にするため会報のバックナンバーを眺めていると、1988年、着任したころを改めて思い出しました。当時のガイドブックは、ポートタウンをコンピュータ制御で無人電車が動く未来都市と紹介しています。人文学部は、日本文化学科＋英米文化学科という構成でした。変遷をたどってみましょう。「設置」と「増設」が混在しますが「相愛大学のあゆみ」に従いました。

① 1984年 人文学部設置。 ② 2000年 男女共学実施。人間心理学科・現代社会学科増設。
③ 2011年 仏教文化学科・文化交流学科設置。 ④ 2013年 人文学科設置。(2020年現在、学科の構成は日本文学、歴史サブカルチャー、仏教文化、心理、国際コミュニケーション、ビジネス・

社会の6専攻)

どの時期に在学されたでしょう。めまぐるしく変わっているようですが、英米文化学科が文化交流学科を経て、国際コミュニケーション専攻につながっているように、連綿と続いているとも言えるでしょう。なお、図書館長を兼務しておりますので、PRをいたします。図書館は卒業生の方もご利用いただけます。変わらぬ姿をご覧ください。その折には本人確認の書類をお持ち下さい。



わがよろこび

名誉教授 鈴木 徳男

小文を載せた「南風」が皆さんのもとに届けられる頃、3月で定年退職した私は、新入生を迎えた大学のにぎやかさとは裏腹な日々を送っていると思います。通勤で眺めていた南港の海は、例年通り、春の穏やかな光にきらきらと輝いていることでしょう。そこに集うひとの顔ぶれは年年歳歳に違っても、迎えてくれる自然の表情は変わりなく巡ります。

昭和の末頃から令和の現在まで短大を含め三十余年、相愛学園に勤め、多くの卒業生を送り出しました。その間、私は、自らの本分をわきまえ不満を抱かないことを信条にして、大きな収入や名声を求めず、閑かな環境に身を置くことを願ってきました。今までの暮らしが快適でないとすれば、どこへ行っても満足できないことでしょう。感謝の思いしかありません。

和歌文学研究がライフワーク。専門の学術書二十余点、論文八十余編を著しました。回顧すると、同じ志を持つ仲間など、心に残る大切な出会いがたくさんありましたが、なかでも藤原定家を書き写した写本との出会いは、研究者冥利に尽きる出来事でした。縮くごとに料紙と墨の間から八百年前の偉人の息吹が感じられ、何ものにも代えがたい感動が今も忘れられません。

『徒然草』で兼好法師は、古い書物をひろげて、見ぬ世の人を友とする思いを説いています。古典を読んでいる者として、しばしば経験するよろこびです。

直木孝次郎先生を偲んで…

平成31年2月17日、新聞各社に訃報が掲載された。いつかは…と思っていたこの日がきた。

その少し前「100回目の1月30日によせて」と題して、カードと手紙を送った。気恥ずかしさを伴う40年以上分の思いを込めた恋文である。初めて先生のご著書にふれて以来その教を乞うために相愛大学に進んだわたしは、社会人になってからも折に触れて先生とのご縁を形にしてきた。

令和元年も終わろうとする12月21日午後、長年教鞭を執られた大阪市立大学で「追悼のつどい」が行われた。先生のお人柄を偲び、ご功績を称え、そして先生を懐かしむ会で、幅広い分野の有縁の方々が先生のお姿を語った。

100年とひとくちに言っても、1世紀であるから、壮大な歴史を自ら描ききった生涯である。1919年といえば、パリ講和会議が開催され、ベルサイユ条約が締結され、日本では前年に米騒動があり、混乱する世の中、いわゆる“佐竹本切断事件”があり、衆議院議員選挙法が改正されるなど、まさに歴史のできごとが列挙される年である。

先生の生涯は想像しがたいご苦勞や艱難があっただろう。殊に戦争に対しては特別な思いがあたりだったようで、詠歌にもその思いはうかがえる。けれど生涯の多くの時間を歴史の研究に費やした先生である。それゆえ、わたしたちは歴史家としてのお姿に接することが多いのは必然であるが、「追悼のつどい」では歌人として、私人として、そして家庭人としての先生のお姿を垣間見ることができた。

これまでも、これからも師と仰ぎ、このご縁を大切に生きていきたいと思った一日であった。

人文学部2期生 一階 由香



第10回 相愛大学人文学部同窓会 総会・懇親会

第10回 相愛大学人文学部同窓会 総会



総会報告



令和元年8月24日、ホテル阪急インターナショナルにて第10回人文学部同窓会総会・懇親会を行いました。理事長・学長の金児曉嗣先生、学部長の益田先生をはじめとする先生方に来ていただき、乾杯の挨拶は西口順子先生にいただきました。

そして今回初めてプロジェクターを使いスライドショーを行いました。過去の人文学部の懐かしい写真を探し選ぶところから始まり、編集作業など、準備は大変ではありましたが、当日BGMが流れる中、個々の写真にアナウンスを入れながら、皆さんに

見ていただきました。スライドショー中は「お～」という歓声があったりと、当時の写真をみて、先生・同窓生ともに懐かしさに浸っていただけたのではないかと思います。

卒業して社会人になっても先生の前ではつい学生に戻ってしまう。また母校を通して世代を超えて出会うご縁が同窓会のように思いました。

総会というと敷居が高いイメージがあるかもしれませんが、そんなことはございません。次回の総会も気軽に母校へ里帰りのような場として参加していただけたら幸いです。



満員御礼！第10回相愛寄席

昨年の11月に本町校舎講堂にて、第10回相愛寄席が行われました。

人文学部の学生が中心となって運営し、1年生は授業の一環として参加していました。第10回開催の記念として、人文学部同窓会よりスタンド花を贈らせていただきました。母校での先輩たちの活躍と嘶家さんたちの熱気を卒業生の皆さんも是非味わいに来てはいかがでしょうか。



2018（平成30）年度卒業 学年幹事【人文学部32期生】

うだ	はるか	いながき	さや	まえぐち	あかね
野口	遥	稲垣	沙也	前口	
のぐち	けんじ	ちよう	ぐん	か	いれい
野口	賢治	張	群	何	依玲

～記事募集～

卒業生の皆さまの活躍に関する記事を募集しております。

例えば、「〇〇先生のゼミで集まりました」「今、私はこんな活動をしています」などゼミ単位での同窓会の報告や、個人的な近況などでも結構です。同窓会ホームページの【お問い合わせ】ホームまでお知らせください。

イベント情報については相愛大学HPをご覧ください

同窓会からのお知らせ

■ 住所・氏名の変更について

学科名・卒業年・氏名(旧姓)・電話・FAX番号・郵便番号・住所・会員番号(会報郵送時の封筒に記載)をこれまでと同様、同窓会室宛にお知らせください。ハガキ、FAX または同窓会ホームページのご住所変更フォームにてお願いします。(同窓会ホームページからもお知らせいただけるようになりました)
〒541-0053 大阪府中央区本町4丁目1-23 相愛学園内同窓会室 / FAX 06-6261-2040

～寄附のご報告～

相愛大学人文学部同窓会より、相愛学園ウィステリア基金へ10万円寄付をさせていただきました。

今号より会報を全会員にお届けします。

訃報

・平成31年2月2日ご逝去 直木 孝次郎先生
(元人文学部 教授)

先生のご遺徳を偲び、謹んで追悼の意を表します。合 掌

過去帳 納め

同窓会にお知らせがあった物故者のお名前(同窓生)を、毎年2月に大谷本廟の学園関係者過去帳に記入し、納めさせていただいております。

着任・退職

敬称略

平成30年度 ご退職

初 塚 眞 喜 子

令和元年度 ご退職

鈴 木 徳 男

平成31年度 着任

坂 田 眞 穂

令和2年度 着任

阿 尾 あ す か

編集後記 editorial note

今号は令和初発行の会報となりました。これを期に10月発行から4月発行へ、そしてホームページで閲覧可能となったため希望者にのみ送付していた会報を、再び会員全員への発送に変更いたしました。(学園発行の「相愛ファミリア」と同送しております)

もし周りの同窓生で会報が届かないというお声を聞かれましたら、同窓会へお知らせください。会報を通して同窓会の活動や同窓生の近況を今後も届けられるようにしていければと存じます。

編 集 委 員

一階 由香	大迫 秋穂	竹田美奈子
中村 則子	松原 美佳	森本 裕子
安田 圭佑	山田 容子	(五十音順)